

生産者の声 ～JAが取組む「自己改革」を実感～

JAあさか野では「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JA を利用した生産者の「生の声」をお届けします。

融 資



「この農地で何をやるか」
－ 家族の農地が、人生
の決断を生んだ－

「何から始めれば良いか」
－ 就農への道筋を照らし
た伴走支援－

「学び続けることから」
－ 学びを積み重ね、理想
の農園へ－

地元の農地を、未来の笑顔へ。

新規就農者が切り拓く、いちご農業への道
埼玉県新座市。都市近郊の住宅地の中に広がる農地に、4棟計15aのビニールハウスが静かに建ち並ぶ。中に足を踏み入ると、合計で1万株以上の「いちご」が育てられる空間が広がっていた。両親からの「高齢になり、農地を全面的に活用し続けるのが難しくなってきた」との言葉を受け、井口さんは新規就農を決意。地域の作物を徹底的にリサーチし、埼玉県が全面

支援する埼玉県産いちご品種の栽培に照準を絞った。



JAが動いた、伴走型支援

「地域農業は、長年の経験が物をいう。ゼロから参入する自分には、環境をコントロールできる施設栽培が合っていると思った」。JAの営農担当からアドバイスもあり、「いちご栽培」という答えが固まっていた。しかし、新規就農者にとって、資金計画、関係機関との調整は大きな課題のひとつだ。JAあさか野は、融資相談の窓口に加え、補助金や制度融資の活用時期を踏まえつつ、並行して営農相談も行うなど、融資と営農の両面から伴走型支援を行った。「事業化までの時間軸を考慮した、一つひとつのタスクが明確となり、先の見通しを持って準備を進めることができました。関係機関との調整もしてくださり、安心して事業計画の策定等に取り組むことができました」



一歩ずつ、理想のいちごづくりへ

井口さんは、まずは安定した栽培技術を身につけ、いちごを継続して生産できる農園づくりを目指している。現在は、行田市のベリーズファーム・ハセガワで研修を受けながら、栽培技術の習得に励んでいる。「まだスタートラインに立ったばかりですが、一つひとつ経験を積み重ねながら、おいしいと思っていただけるいちごをお届けできるよう取り組んでいきたいと思っています」

井口 宏樹 さま



事業内容

令和7年度に親元での新規就農し、令和8年度より、いちご栽培に着手。令和9年度より販売を目指している。
●認定農業者



Field Notes

私は主に営農に関すること全般で携わらせていただきましたが、井口宏樹様さんは自ら「この土地で何が作れるか」

を調べ、研修先も自ら開拓されました。真剣に農業と向き合う井口さんの姿勢に、私自身が多くを教えていただきました。

まだ始まったばかりですが、これからの栽培・経営管理のフェーズでも的確なタイミングで支援ができるよう、私たちJAも一緒に成長していきます。

どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

指導経済部 営農支援課
課長代理 梶 原野

